

398

407

草稿

一、物地物別表

毎々難課
七廿九
孫手順ヲ

官給看護人ノ取扱

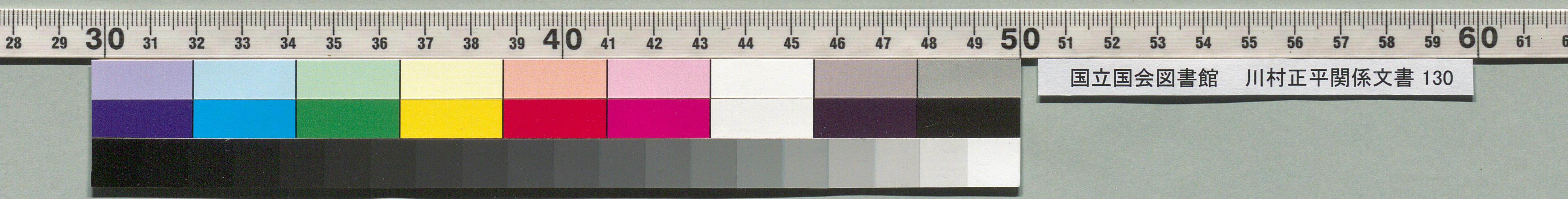
一 纏頭ヲ受クルヲ以テ定例ト心得受ルモノト受テ
モト務事ニ着シキ厚ク居アル

一 俚人或ハ貧人ノ賄賂ヲモモノヨハ常ニ蔑視シ危急病
問ノ場ハカタキモノ発作スルモ夜間ホニ會シテ熟
睡ニ托シテ容易ニ看後セカル

一 驗温計ツノ外時間ヲ限ル治法ニ至リテモ自分自身
ノ都合ニ依ラカシハ決シテ下手セカル

一 室内厨厨行燈食器ハ、洒掃ハ互々ノ手ニ
 依頼スルノ怠惰ヨリ遂ニ汚穢不潔ヲ極ル
 一 枕席夜衣總テ患者ニ所ル諸器并ニ接遇
 女保ニ至ル迄善態ノニ等ヲ別チ見セシメテ愛惜
 フクヘテ賄絡ヲ要スル奸計ハ最モ^婦人室ニ甚シ
 一 患者ヲ誑スニ^滋養ノ二字ヲ口實トナシ酒肴ヲ調
 シソ或ハ果料ノ亞爾箇兎ヲ竊盜シテ午飲シ賄
 ナキ患者ヲ罵詈スルヲ特ニ^婦人室ニ盛ナリ

一 患者ノノ氣質ヲ粗ヒ依倭奸ヲ以テ金衣ヲ欺キ借
 リ畢竟返却セザル馬策^婦人室ヲ最トス
 一 患者一人ニ片多ク友ヨリ給テセラル、炭ヲ私シテ別
 賄方ヨリ買シムルヲアリ
 一 患者ヨリ糜粥ニナカシガ為ニ托セラル、米ヲ陰匿
 シテ私利ヲ^匿テシ^食餘^ヲノ宿飯ヲ以テ粥トナス
 一 綁れ糸綿水垢法入屋ハ新規給テセラル、モト
 私シテ患者ハ古キ物屋ヲ用ユル



一 病者入院已来時、親戚編^故等ノ見舞人少
中モノ不幸ニシテ、死ル^レシ^ハ、当人^ノ所有ノ衣類雜
具、亦ヲ^レ奪^レ振^レス^ル。

一 病室給与ノ油ヲ減却スルガエ、ニ鶏鳴^ニ至^ラズ
シテ^ハ燈火^ヲ消滅ス^ル。

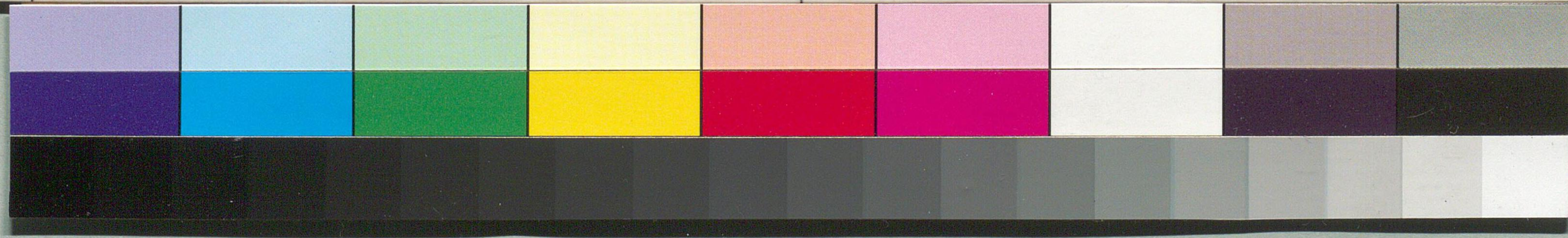
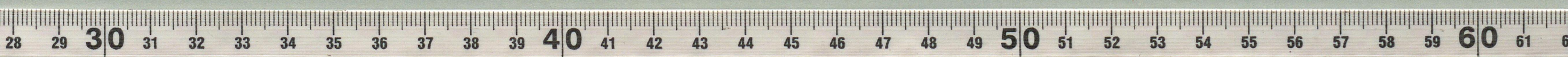
一 ^{已上}難乃ノ病状トナルヲ以テ新系ノ者ト色モ規律ノ
後吸スズモノナケシハ、遂ニ^ハ傳染^シテ同疾^{タル}コ
免カレズ。

癸亥

一 賄方ニ於テ私産ノ看護人ヨリ過分ノ食料
ヲ取^ルス^ルヨリ自然^ニ人^ノ益^ノ働^キ足^ルモノ居^附力
ナル。

一 賄方ヨリ検査^ニ供^スル食糧^ト患者ノ食^スル物
トニ差^{アリ}アル。

一 官給看護人^ノ監^法ナ^キガ故^ニ特^ニ賄方ノ權利
ニ在^リテ^ハ感^色情^{ヨリ}透^リシ^テ或^ハ賄物^ヲ採^用
シ^テ其^ノ醜態^ヲ言^フヘカラ^ガル^形状^{ヨリ}成^立テ^リ。



今日ノ規則ト唱^{年法}ト夕十時ヨリ雜局ニ炭
 火ヲ滅却^{スレト大書者}ト自陽^{ヲ陽}ト夜間^ト芥子^ト沱^ト巴布
 自陽^トト毎^トト差支アルト

●藥局ニテ製菓ト夕遊刺^トニルト

●藥汁^ト致^トト語^ト誤^トアルト

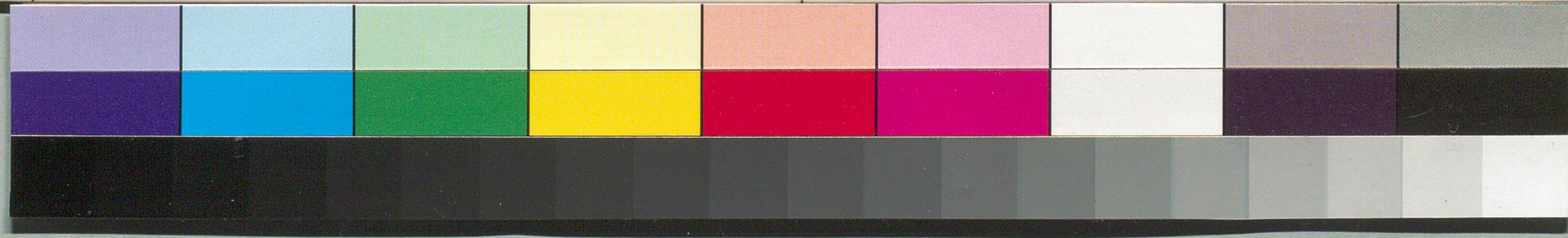
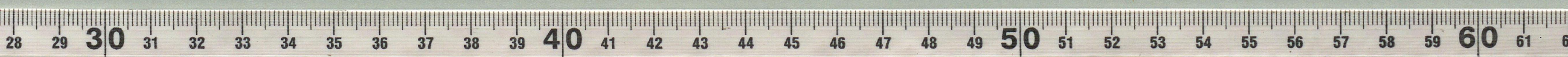
●着^ト新^ト人^ト在^ト入^ト方法

●官給看後人ノ選擇^ト最モ要^ト用^ト凡^ト力^ト工^トニ所^ト力
 及品流ノ善^ト者^トヲ選^トニ假令材力ニ富^トム^ト片^ト輕
 躁^ト浮^ト爲^ト眞^ト實^トニ乏^トト^ト中^ト者^ト用^ト工^ト一^ト力^トヲ^トズ

●看後人^トニ于^ト五^ト条^トト^トサ^ト力^トヲ^トス^ト五^ト十^ト条^トト^トサ^ト力^トヲ^トス
 力^ト也^トラ^トサ^トル^トト^ト但^トシ^ト私^ト社^トノ^トモ^トハ^ト此^ト限^トニ^トア^トラ^トス

●お^ト給^ト看^ト後^ト人^トノ^ト身^ト体^ト健^ト康^ト性^ト質^ト爲^ト眞^ト實^ト温^ト和^トニ
 一^ト患^ト者^トノ^ト姓^ト名^ト取^ト字^トト^トハ^ト全^ト江^ト支^トト^トモ^トト^ト要^トス

●解^ト不^ト解^ト



一看護人月給四円より五円五円定ツル優劣に依リテ三級ニ分チ一級ゴトニ五十銭ツノ差可置キ職務ヲ勵ムルニキ

一勤勉ノ者ヲ擢拔シテ雇人官給看護ノ補助トナシ

一月一円五十銭ツノ給与スル

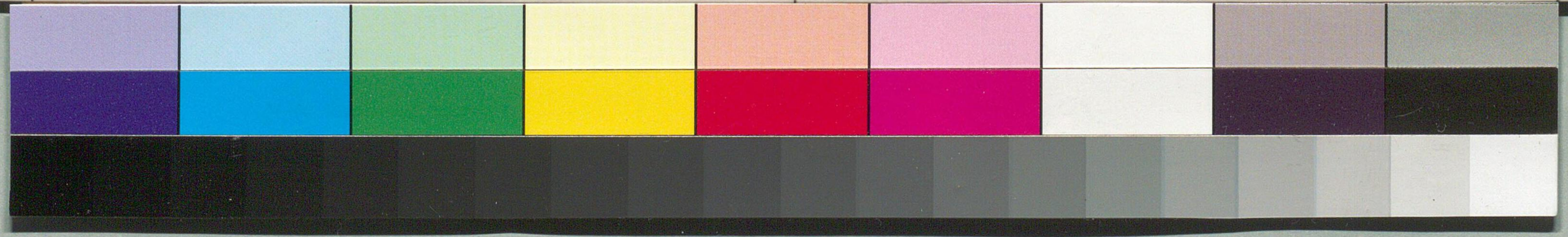
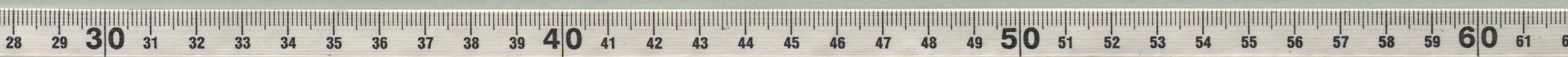
但し食糧ニ患者ノ餘物アルヲ以テ別ニ給スルニ及バズ

一看護人ノ患者ノ数ニ準シテ定ムル

外科ニ患者八名ニ付看護人一人ノ比例ヲ以テ十
五名迄ニ看護人一人外ニ雇人一人ヲ置キ其給スル
患者十六名ヨリ看護人二人持ト定メ二十三名迄
ニ雇人ヲ加ヘ置クニ一兩例ノ如シ

内科眼科ニ手致少年ヲ以テ十名一人ノ比例
ヲ以テスルニ雇人ヲ加置スルニモ其例ノ如シ

一患者増多ニツキ同下看護人ニ擢拔スル者
ナキ時ニ雇人ノ數ヲ益シテ其給スル



[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一人の看護人心持

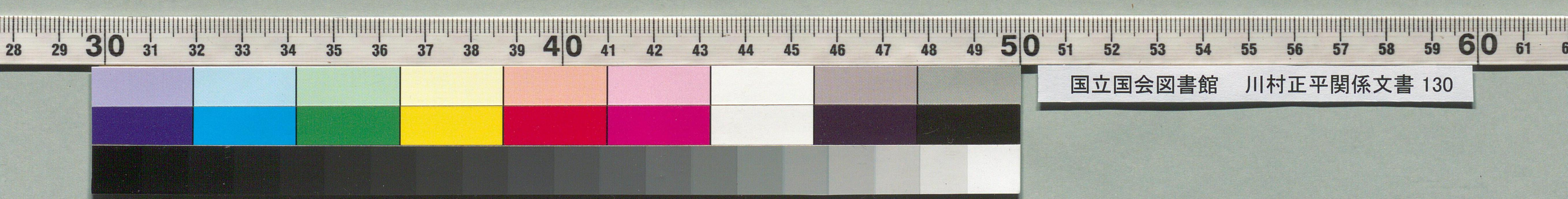
病室ノ規則ヲ守リ
一 患者ノ病室ノ物論 雑乃ノ庄園ニ付ス

病人ノ別ノ身ノ主人ニカ放シテ
諸事ヲ進シテ方カレ

一 病者ヨリ引取テ自己ノ私意ヲ以テ
進出スルカレ

一 日夜休傍ヲ離スシテ

患者ノ



馬者短
暗申勤
于静ニ
大ナリ

睡眠中、静養ヲ守リ、夜令衣小剝脱

セザルニ注意スルコト

床側、褥ニテ烟竹ヲ喫スルコト
其矣

一、車馬者ノ輕重ニ應シ、必用ノ器物、

身近カタ所ニ備ヘ置クベキ

一、夜間、最モ看渡ヲ大切ニ勤ム
一、申時ナレバ

馬者ヲ帶ビハル様
厚ク包ミ之ヲ守ル

食物、馬者ノ意ニ適スルヲ主トシ、
何ノ多飲アルハ決シテ疎漏ニス

一、患者ニ所スル諸器、均並ニ自外自身モ

清潔候コトヲ守ル
多早ク

一、為テ用向キ、病情ノ急切ナルヲ辨別シテ、成ル所ノ便宣ニシ

一、大患在テレバ、貝林傍ニテ喫飯スヘシ、通第

一、患者ナレバ、間ヲ暇ヲ乞フテ、喫スル

病室ニ群集シテ人ノ訛謗或ハ雜語
スルコトヲ禁ム

病室ノ規則

瓶内凝膠

看病人心得

一 諸事醫局病室掛、差圖ヲ受不可
違背事

一 入院、患者ハ主人同様相心得一
人又痛苦ヲ自己ノ身ニ引南トシテ病者ナラザル者無シハ信
實ヲ第一トシテ萬端懇切ニ

取扱可申事

一 各々其掛茶敷ヲ与ヒ且職ヲヲ慎ミ掛ヲ分チ人リテ分チ置シ可ク先モ

一 各々其掛依敷スベカラカレ

二三件。兼ル丁アルハシ

一 毎日拂曉起出病室ヲ可筭掃事

一 便所ノ掃除別而可注意事

一 廻痰ノ時申合可添附事

一 廻痰ノ後藥方録ヲ以テ速ニ藥

局ニ乞患者與丁ハキ事

一 水治法吸入法其他事業ニ係ル丁

ハ嚴ニ時間ヲ定メ^{不可怠慢}トキ事

一 藥餌共ニ格別注意致シ其器具

等不潔ナラサル様可致事

一 患者三回ノ食事ハ可成丈時限

ヲ^不愆様可注意事

一 患者不意ノ發病ホ有之時ハ即

時医局ニ可申出事

一 患者ノ傍側^{終日受持}ニ在リ常ニ之ヲ看護

スル丁ナレハ其患者臥床ニ在テ^不振

10

徘徊

牙丸

分七

八

其他
生不都合ノ事有之時ハ其次第ニ寄
聊無忌諱医局又ハ病室掛工可申聞事

一 患者ヨリ物ヲ問フ事アリハ假令此

末ノ事ト虽モ懇ニ之ニ應ニ由舎間

ノ者ハ別而細密ニ可相答事

一 医療ノ器械又ハ食膳ノ器具等ニ

至ル迄一トシテ官物ナラサルモノナリ

サスレハ損害廢棄セサル様可注意ナ

謹慎シテ

十

三

一 乃モ畏者ニ若シテ不敷ナル之語且根

リガコレキ所止アルマビキ

五

○ あり職努

一 掃脱病室等掃

一 患をニ病スル者ハ灌洗久ル

一 字ニ温汁 毎朝食前ニ時限ヲ定メ置

一 烟火切リ炭ヲ用ユ

一年乳

ビシノ流方^{精清}透明ニテヲ要ス

朝染

衛生ノタリカラカクモノ故道テ他和
ノ混交ナキカヲ任^意シ患者ヨリ粥
ヲ求^レル必^ズ米ヨリ製スベシ^何モ湯
淡^目又^ニ之^一シ

一治法

夜ノ治法^{医員}・差^因・^時間ヨリ^或ハ
早ク^レ或^ハ遅ク^レ私^ノヨリ^テ情^ハナ^ラズ

一回診ノ隨從

① 葉乃^ハ使^シ

ビシノ流^使ニ^シヘシ^目
透明ニ^シテ^以テ^度ト^ス

一年飯

後^者ヲ^取リ^遺ガ^ル抗^菌素^トス^ル

一ス

ビシノ不^潔ヨリ^臭気^ヲ生^スル^也ト^シテ

一葉乃

△^調劑^ノ後^ニハ^一試^リテ^キカ^ヲ捨^スベ^シ

一治法

午^ノ時^ノ後^ニハ^一試^リテ^キカ^ヲ捨^スベ^シ

一 廁ノ洒掃

扇^目ニ^スレ^テ窓^障子^板戸^ホ
破^換ノ^モノ^アラ^ハ直^ニ其^ノ箇^ノ中^ニ出^ス



一 烟火 あまのこゆし

一 夕餐 あまのこゆし

一 守 湯汁 ^暖 朝のゆし

一 一 院 燈のこい本 燈の充分入るべし 燈具の
燼垢のつらべからず 掃除破

掃除の中 補うべし 残ホの直ぐ
汚れてスべし

右の外の 受持の室の 残りの汚穢

○ 各 受持の室の 残りの汚穢

一 新入の者 了らば 服系 角方ヨリ 食料ノ

階級ノ外 室の一 夜ノ自 煩ヲ先ケ 成丈

ケ 冗費ヲ 費サレ 採ニ 取扱フ 事

十一 月 一人付、看後人 ^{ヨハ} 常ニ 憂恤シテ 患者ニ

慮ル、上ニ 毛モ 休養ニ 氣質ニ 通シテ 不勞後ニ 倦マ

見ズ 不潔ヲ 厭ハル 様 習ハシ 置ク

一 中 一

[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive style]

入院之者心得

一 當病院ノ儀ハ医学生徒病質

經驗ノ爲ニ設クルニヨリ輕低費

ヲ以テ入院セシムルナレハ各人

此旨ヲ可心得事

才三 入院ノ徒ハ何レモ病者ナレハ

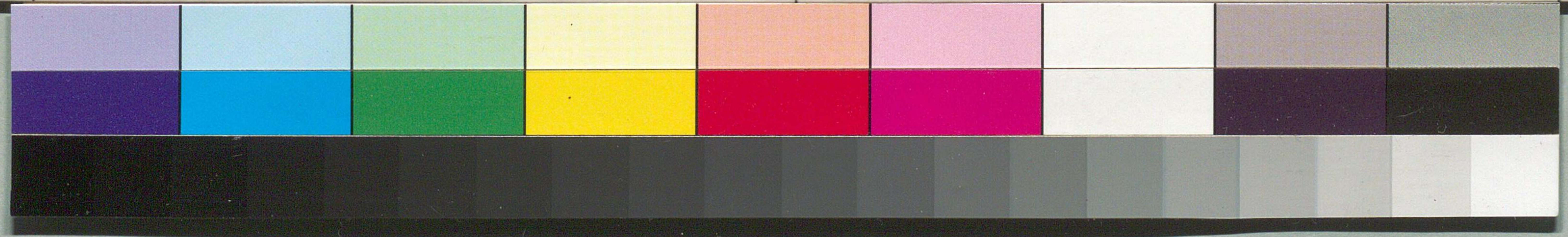
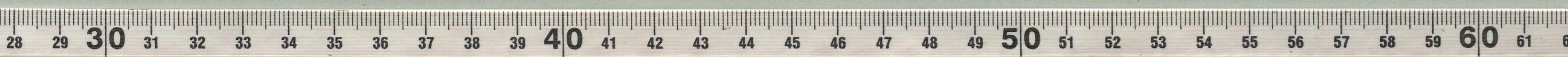
身體保護ノ義厚ク注意スヘ

才五 患者群集シテ谈笑雜沓モ或ハ夜間ニ

キ事 高聲アリテ寤レ他人ノ妨害ヲナス事

才二 入院スル已ニ
才一 醫員ノ
余ヲ服膺シ病
室規則ヲ守ル
才一

才四 入院中圖書ヲ
棋讀スル鴉テ
腦力ヲ勞テ
才一



一 患者見舞毛
長詔在り

三四 賄、外茶菓等漫 間食不

ベカラザル事

一 食物ノ義ハ一菓一蔬ト魚ト大

二 榮養損害等ニ係ルモノナ

シハ假令稀少ノモノト魚モ医

負ニ問ヒ其許可ヲ得テ之ヲ

食スヘキ事

一 愚者 モ自然 室内ニ在テ運動

消化機ヲ勞セカハルモノヲ選ビテ

少キ故ニ勤テ過食スヘカラザル事

ル事

道通散步ハ

一 其病症ニヨリ 道通散步ハ 医員ノ許可ア

ルモノハ徐歩運動ヲナシ 又

清新ノ空氣ヲ呼吸スルヲ要



一 衣服ハ時々洗淨シ不潔ナラ

ザル様注意スヘキ事

一 何事ニ曰ラス不案内ノ義ハ
牀頭ノ諸事ハ凡テ看護人ニ依頼スル事ナリ

一 看護人ニ可尚事

一 看護ノ者不都合ノ義有之

時ハ聊忌諱無ク病室掛工可

申出
申事

古之通可相心得事

大学東校
附属病院

醫員

同於前ハ外出スベカラカレテ不得也

事故アルハ其旨醫局ハ達シテ
許可ヲ受クベキナリ

一 2
非込スルモノハ護人証書持来外レモ
室掛ハ差出スルベキナリ

一 1
風雨陰雲ノ快晴セザル日並
平常

以下外出スベカラカレ

○ 事ハ轉方ノ沙汰
味ノ変スル時

改正、汝法ナクシテ是計前方ト色味ヲ

異ニテ凡片ハ其旨看落人ニ示シテ

生一糸多乃ノ失ニシテ致ルアルナレバ是ヲ患者ノ心得片
ニ載セカクナリ思ハル先主也

一山名家ノ擔任スルヲ以テ
主事ト為ス可キ事

病室掛心得

一入院、徒有之時ハ医局ヨリ達シ次
弟帳簿ニ記保證人ノ證書取之可
申事

一患者入院孰^就床之上ハ心得書ノ趣
懇ニ可申簡事

一看病人ノ進退作業之ヲ委任スルヲ
以テ厚ク注意可致事

一 賄向未是又權内有在ヲ以テ三回共之
ヲ検査之不消化ノ食餌等決テ不給
與様可注意事

一 時々病室ヲ見廻リ患者ノ請求等
有之時ハ之ニ應ニ事柄ニ寄医局
工可申出事

一 政法等ノ官卜違ヒ医院ニ從事スル
ヲ以テ謙退ヲ旨トシ諸事懇篤ニ

可致ハ分論又医ノ道モ一應ハ之ヲ知リ得今
然シテ後患者ノ心得トモ可成儀ハ
誠意ヲ以テ厚ク教諭可致事

一 食物商人ハ其品ニ寄可嚴禁事

一 室内又ハ卦具等器具ニ至ルマテ見廻ノ
都度可注意事

一 雨露濕風ノ事ニ意ヲ用ヒ破損ノ
箇所有之時ハ速ニ管繕掛工可申談事

888

Faint handwritten Japanese text, likely bleed-through from the reverse side of the paper. The characters are mostly illegible due to fading and the texture of the aged paper.

